

民医連厚生事業協

# 共済だより

2020年  
9月  
第149号

発行所●全日本民医連厚生事業協同組合

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4  
平和と労働センター6F  
TEL03-5842-5650 FAX03-5842-5652  
E-メール:k-tayori@min-iren.gr.jp  
(共済だより用)  
kyousai@min-iren.gr.jp  
(厚生事業協宛)  
ホームページ:http://www.min-jigyo.or.jp/



いわさきちひろ「雨上がりの街と子ども」1970年  
(14ページに作品のコメントと美術館のご案内をしております)

## 主な記事

### 2019年度年間通信賞

伝えていきたい私の民医連<sup>122</sup> 愛媛・竹内 裕子(上)

いま、沖縄に連帯して 辺野古の座り込みも「命」最優先に

新シリーズ「共済」～いのちとくらしを支え社会をつくる～/本間 照光

いま、なぜ憲法改悪なのか パートII<sup>80</sup> 若手弁護士の会

縮図からみる世界<sup>29</sup> 甲子園球場での巨人一阪神戦/斎藤 貴男

私の趣味・フィールド紹介<sup>129</sup> カレーはお店によって個性がある/神奈川・星 香住

2020年度  
スポーツ文化企画  
のお知らせ

<http://www.min-jigyo.or.jp/>



ログイン 2020  
パスワード 1192  
(半角数字)



携帯電話でご応募の方は  
こちらからどうぞ  
応募先のメールアドレスが  
読みとれます

# いま、沖縄に連帯して

## 辺野古の座り込みも「命」最優先に



距離を取って座る市民と密集する民間警備員

7月4日はアメリカの独立記念日です。在沖米軍も式典を催し、本国と同様、祝日として過ごしました。今年には新型コロナウイルスの影響もあり、本国では外出規制など厳しい制限がありますが、アメリカに比較すると圧倒的に感染者の少なかった沖縄では、米軍関係者主催の大規模なイベントやパーティーが、民間地のビーチや公園などで開催許可申請も行わず無許可で開催されていました。

渡航は禁止されていても、米軍関係者は直接、嘉手納基地から入国し、日米地位協定で検疫さえも免除されるため、症状のない感染者が多数沖縄に入り、どんちゃん騒ぎの結果、感染拡大を招いたのです。沖縄県の新規感染者は5月下旬から40日以上確認されませんでした。しかし、県を跨ぐ移動による感染者が7月初旬から出はじめ、米軍関係者の爆発的な感染以降、県内の感染者数も二ケタを超えていきました。さらに、Go Toトラベルキャンペーンが開始されてからは、過去最高の感染者数が連日続き、10万人あたりの感染者数は全国最悪となっております。

コロナ禍の中での辺野古ゲート前座り込みは、第1波の緊急事態宣言が解除されて以降再開されましたが、感染防止のため県警機動隊との接触（ごぼう抜き）を避け、自ら立ち上がり移動するようにしていました。沖縄県独自の緊急事態宣言が再び出されたのに合わせて8月3日から、「命」を守ることを優先するため、辺野古新基地建設



新型コロナ対応で行ったゲートでの検温チェックのため発生した大渋滞

### ◎カンパ送付先

郵便振替口座 加入者名：沖縄県統一連  
口座番号：01710-8-62723

会長 瀬長和男

憲法や人権、民主主義の正しい知識を身につけることは、その人の人格形成や社会とのかわり方を大きく変えます。そこに生きる人々が、自由や平等についての正しい知識、たしかに人権感覚を持っているかどうかは、社会や国家のあり方そのものを左右します。それは今、政治への無関心や、さまざまな差別、弱者への冷たい視線などが際立つ社会を振り返ると、身に染みて感じる方も多いのではないのでしょうか。その点が不正確な教科書が学校で使われることは、子どもたちの成長や学びにとって大変危険で、避けなければなりません。

### (1) 不採択が続く育鵬社の教科書

ここ最近、東京都立の中高一貫校や特別支援学校、さらに神奈川県横浜市や藤沢市で、来年度から使う中学の教科書の採択が行われ、それまで使用されていた育鵬社の公民教科書が不採択になったことが話題になりました。

育鵬社の公民や歴史の教科書は、数多くの歴史的事実が書かれていなかったり不正確だったり、他方で神話ベースな話があったかも史実かのように書かれていました。特に憲法についての記述は、異常ともいえるものです。

## シリーズ

# いま、なぜ憲法改悪なのか パートII

## ⑧ 欠陥の多い育鵬社・公民教科書 ～不採択で子どもに正しい学びを～



「明日の自由を守る若手弁護士の会」共同代表  
公式ブログ <http://www.asuno-jiyu.com/>

黒澤いつき



### (2) 大日本帝国憲法の「賛美」

まず、大日本帝国憲法についての記述が多い上に、賛美するばかりで批判的な視点が欠けているという点です。例えば大日本帝国憲法を「アジアで初めての本格的な近代憲法として内外ともに高く評価されました」(40ページ)と高く評価する記述がありますが、「万世一世」で「神聖不可侵」な天皇が絶対的な主権者である、という神話と史実が混ざったものが中心原理の憲法を「近代憲法」と評価するのは、正しいとはいえません。

また、国民が主権者ではなく「臣民」であり、基本的人権が「法律の範囲内」でしか認められないという致命的な欠陥について批判する記述が一切ありません。この制限が、数々の治安立法や言論弾圧を許し、果ては戦争へと政府と軍を暴走させたというのに。こうした「賛美」だけでは、日本がなぜ無謀な侵略戦争へと突き進んだのか、歴史の流れを正確に理解することは不可能です。

### (3) 平和主義は「おしつけ」!?

さらに9条については、侵略戦争への反省という視点がなく、GHQに押しつけられたもの、としか書かれてい

ません。

「連合国軍は日本に非武装化を強く求め、その趣旨を日本国憲法にも反映させることを要求しました。このため、国家として国際紛争を解決する手段としての戦争を放棄し、「戦力」を保持しないこと、国の「交戦権」を認めないことなどを憲法に定め、徹底した平和主義を基本原理としました。」(48ページ)

この記述で、日本国憲法の生い立ちや、戦争放棄に込められた国民の思いを理解することはできません。子どもたちの学びをバックアップするどころか、歪んだ解説で妨げているとすらいえません。

その他、立憲主義についての説明も不正確で、性差別・ジェンダーの問題への無関心も際立ち、これでは教科書として欠陥品、といっても過言ではありません。

今なおこの教科書を採択している自治体があることは大問題ですが、市民の良識と地道な努力の成果で、判断を切り替えて不採択にした自治体が出てきたことは、子どもにとっても社会にとっても大きなことです。

## 縮図からみる世界【29】

齋藤 貴男



## 甲子園球場での巨人―阪神戦

このところ「功利主義」という言葉が頭から離れない。哲学辞典の類が、「一般には功利効用を一切の価値の基準とする人生観を指す」となると解説している社会思想のことだ。

気になる理由は、昨年刊行された『幸福な監視国家・中国』(梶谷懐・高口康太著、NHK出版新書)を読んだことにある。ITを駆使した究極の監視社会で、道徳心や愛国心まで格付けされ、生活を左右させられる中国人民の大多数は、その状況を喜んでいっているという。圧倒的な利便性や共同体の利益の総和の前には、プライベートシードの個人の思想信条、ライド、意地、尊厳だのの精神性には価値がないということらしい。

――「命の選別」の問題にも通じる。日本もいずれ「功利主義」に覆われていくのかも。

懸念が募る一方の折も折、プロ野球の世界で、こんなことがあった。8月6日、甲子園球場での巨人―阪神戦。巨人は8回裏に満塁ホームランを浴び、0―11と大量リードされた直後、投手を増田大輝内野手に交替させたのである。もはや勝ち目が無い試合で、本職の投手を疲れさせたくないというわけだ。

はたして巨人はそのまま大敗。原辰徳監督(62)は「最善策ですよ」と語ったが、収まらなかったのが巨人OBで元監督の堀内恒夫氏(72)。

直ちに自身のブログを更新し、「こんなことをして、相手のチームは、どう思うだろうか。馬鹿にされてるとは、思わないだろうか」などと書き込んだ。かつて原監督の下でヘッドコーチを務めた伊原春樹氏(71)も、新聞の取材に応えて、「何よりも試合を諦めてしまったことが、巨人というチームではよろしくない」と語った。

こうした指摘は、しかし、どうも分が悪そうだ。報道を見る限り、「外野手登録の選手が、内野を守ったら失礼になりますか? 限られた人数で、どう使うかは監督の判断だと思えます」とツイートした巨人OBの上原浩治氏(45)や、「やっぱりメジャー経験があつて先発、中継ぎ、抑えを経験しているからこそ説得力がありますね」と追隨した現役メジャーリーガーのダルビッシュ有(34)のほうだが、若い世代の支持を得ているのではないか。

この種の珍事は過去にもあったが、以前は「無礼だ」という精神性がより尊重されていたのではないかと思う。時代は移ろう。とはいえ、原配をめぐる突然の論争の雲行きが、近年のプロ野球界に顕著なメジャーリーグ信仰にとどまらず、日本社会全体の「功利主義」万能視に向かう集合的無意識にも直結するとしたら…。

## 齋藤 貴男 (さいとう たかお)

1958年東京生まれ。早稲田大学商学部卒。英国バーミンガム大学大学院修了。主な著書に『機会不平等』『国民のしつけ方』『戦争経済大国』『平成とは何だったのか』『驕る権力、煽るメディア』『決定版 消費税のカラクリ』など。

